

ある片田舎の病院にて

By N@5mm (X:@N_SMM2)

1. KP向け情報

このシナリオはテキストセッション向けであり、PL視点では1PLシナリオであるが、KP視点では2PLシナリオである。それぞれのPCは互いが侵入できない区域で行動し、ギミックによる交流こそ可能ではあるが、シナリオ終了まで互いがNPCでなくPCであると気づくことはない。

KPは2人のPLそれぞれにソロシナリオであると個人チャットで伝えて日程を調整し、別々の部屋に誘導する。そして、2つの部屋を行き来しながらセッションを進行することになる。

進行が滞る場合リアル時間のリミットを用意してもよい。時間超過した際の処理は5節参照。

2. PL向け情報

※KPは以下の情報を一人目のPC(以下PC1)に渡す

探索者作成制限:シナリオ開始の数時間前、探索者はなんらかの病気で全身麻酔下の手術を受けた。手術の内容はPLが決めてよい。

舞台:2000年代初頭日本、冬の夜の病院内

ロストの可能性:そこそこ **推奨技能:** 目星, 図書館

時間:テキストセッション2〜3時間

注意事項:進め方次第ではPCが何もできない時間あり(暇つぶし道具の持ち込みを推奨)

NG要素チェック:冒瀆的描写、病院の描写、唐突な展開、神話生物の独自設定

※KPは以下の情報を二人目のPC(以下PC2)に渡す

探索者作成制限:シナリオ開始日の前日、探索者は田舎町で気を失い病院へ搬送された。そのままシナリオ開始時まで目を覚まさない。気を失った原因はPLが決めてよい。

舞台:2000年代初頭日本、冬の夜の病院内

ロストの可能性:ロストすると思って探索者作れ **推奨技能:** 目星, 図書館

時間:テキストセッション2〜3時間

注意事項:進め方次第ではPCが何もできない時間あり(暇つぶし道具の持ち込みを推奨)

NG要素チェック:冒瀆的描写、病院の描写、理不尽かつ唐突なロスト、神話生物の独自設定

3. あらすじ

舞台は2000年代、大分県に位置する**桂沢町**。12月15日の午後、サークル仲間の「弓野」とともに桂沢山脈へ山菜狩りへ行った「樹耳」は、「**ミ=ゴ**」(マレウス・モンストロルムP.108)によって地球へ持ち込まれた「**不浄のキノコ**」(マレウス・モンストロルムP.101)の亜種を採取する。しかしその場面をキノコの定期観察のために訪れたミ=ゴに目撃されてしまい、二人は電撃銃によって気絶・病院に運ばれる。彼らのうち弓野は目を覚ますが、樹耳はそれきり眠りについたまま。

その1日後、16日の夕暮れ時のこと。病室で寝かせられていた樹耳の体の細胞が**突如キノコの細胞によって置き換えられ始めた**。彼の異常に気づいた看護師たちは、樹耳を担架に積み、医者のある診察室へ運ぼうとした(本来は医者を病床に呼ぶべきであるが、彼らも気が動転していたのであろう)。だが時すでに遅し、ちょうど診察室から出てきた医者が診察したところ既に樹耳の呼吸はなかったのである。

そして本当の悲劇はここから始まる。正面出入口で樹耳の処理を終え、用のない看護師や医者が銘々の仕事場へと帰ろうとしたところ、どうも体を動かすのに抵抗がある。足が動かない。集団的に発生したこの症状に医師が頭を悩ませているうち、**彼らにも徐々に樹耳と同じ現象が起き始めた...不浄のキノコ化である**。かくして、正面出入口前は不浄のキノコによって冒され、場合によっては朽ちてしまった元人間が散らかった悪夢の空間と化した。

その後数時間して訪れた晩19時頃、昼前に手術を受けて麻酔にかかっていたPC1と、15時ごろに何らかの原因で搬送されたPC2はそれぞれ術後回復室、病室5にて目を覚ます。しかし病院のスタッフは既に外へ避難済み。樹耳の搬送によって撒かれた胞子の拡散を防ぐため院内各所にはシャッターが下ろされ、またいくつかの部屋は急激なキノコ化の原因を調べるために訪れたミ=ゴによって占拠されている。院内はほとんど迷宮である。

一階のみを動けるPC1と、二階のみを動けるPC2。はたして彼らは、テレタイプや小荷物用昇降機を利用して助け合い、汚染されることなく病院を脱出することができるのだろうか？



4. 院内マップ

左側が一階、右側が二階のマップである。

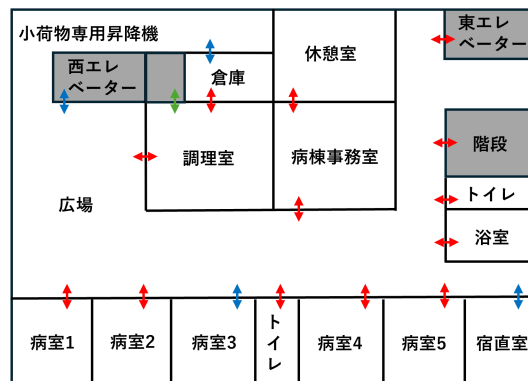
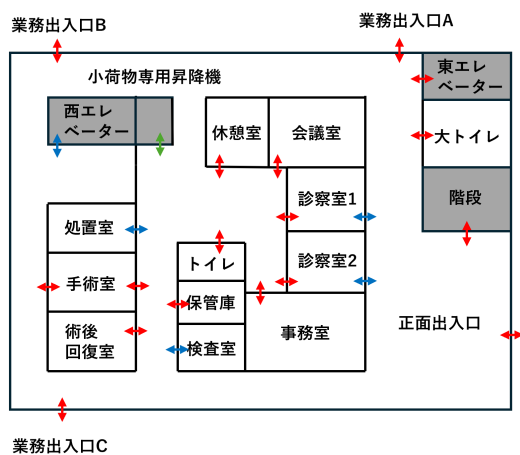
赤い矢印は(条件を満たせば)通行可能な箇所、青い矢印は原則通行不可能な箇所を示す。

A～Eの印はシャッターの種類(詳細は5節)。

PL用

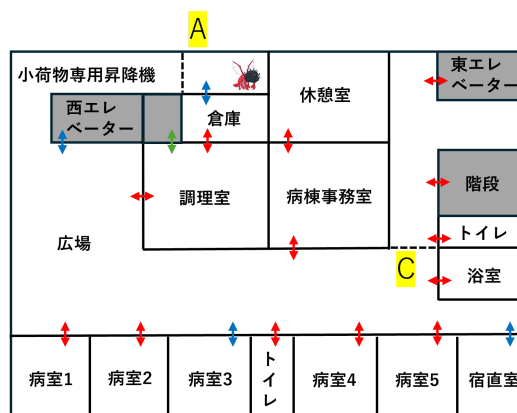
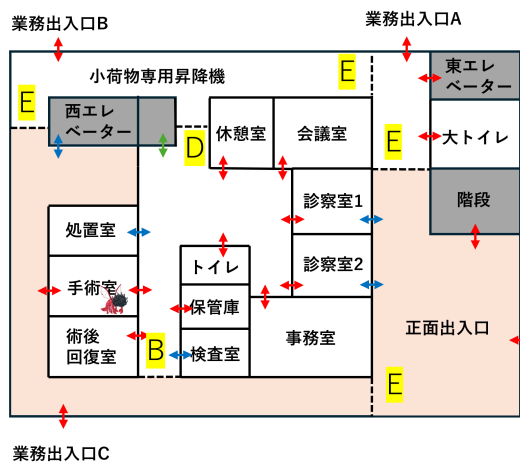
※PL1には一階・二階両方の地図を、PL2には二階の地図をそれぞれ導入で開示。

シャッターはPCが見つけ次第印をつけて示す。



KP用

※オレンジ色の領域は汚染区域。



5. シナリオの流れと特殊要素

進行

2人のPLに対してそれぞれ異なる導入(→6節)を行い、その後は通常のシナリオ通り探索を行う。
ただし、このシナリオではHPが最大値の半分(小数点以下切り捨て)の状態でスタートし、また狂気に陥った場合、手術等で体の弱っている探索者たちは気絶してしまう。このことは事前にPLに伝えておいた方がよい。

また、4節のマップで示した汚染区域に入るか、不浄なキノコおよびキノコに変質した人間を素手で触った場合はキノコの胞子によって「汚染」され、エンディング分岐に影響が生じる。

エンディングの開始タイミングと分岐は以下の通りである。

・気絶、または狂気に陥る

→ED1へ

・汚染されず病院を脱出する

→ED2へ

・汚染後に病院を脱出する

→ED3へ

このほか、他のPCのロストにより進行不可に陥った、あるいはリアルタイムリミットをオーバーした場合は以下のイベントを発生させる。

・詰み解消イベント

院内を探索していると、病院内のあちこちから出し抜けにガラガラと何かの装置が動く音がした。

※この時点で院内のA～Dシャッター(後述)はすべて開放される。

そして音が止んだかと思えば、今度は探索者の視界に巨大な羽虫のような生物が姿を現す。
それは桃色の殻を持っており、せわしなく動く羽でその体を浮かせながら、あなたのほうへ気味の悪い楕円体の頭部を向けていた。

【正気度ロール0/1d6】(院内で既に目撃している場合は0/1)

※シャッターの解放により、シナリオ進行状況に関わらず物理的に脱出が可能となる。ただし、ミゴは探索者を殺害しようと追尾するため、無事に出口までたどりつくにはDEX対抗に3度成功しなければならない。三回成功するまで何度でもダイスを振れるが、一度失敗するごとにミゴの攻撃が発生する。

特殊要素

このシナリオには、2人のPCの交流要素として以下のものを用意している。KPはこれらの性質をよく把握し、不具合が生じないようにする必要がある。

シャッターと操作盤

病院内にはシャッターが存在し、シナリオ開始時点ではすべて降りている。これらにはAシャッター～Eシャッターの5種類があり、一階手術室ですべてのシャッター、一階事務室でA～Dシャッターの操作が可能である。当然ながら降りているシャッターを通り抜けることはできないため、脱出のためには[シャッター操作の手引き]を元に適切な操作を行う必要がある。

誤ってAシャッターを開いた場合、物置奥に閉じ込められているミ=ゴが解放され、PC2とミ=ゴの戦闘が発生する。既にCシャッターが開いている場合は詰み解消イベントと同じ処理をしてもよい。

テレタイプ

一階診療室1と二階病棟事務室には古いテレタイプ(文章情報を送受信できる機械)が置かれている。PC1とPC2はこれを使用することで相手の部屋に数字、英語大文字アルファベットおよび基本的な記号{(),.,-+':/}で構成された文章を送ることができる(KPは入力文を相手の部屋のチャットにコピーする)。ただし、二階病棟事務室のテレタイプは故障したまま手入れされておらず、送受信について以下の制約が加わる。

- ・初期状態では、受信した文字数の合計が100文字を超えるとインク切れを起こし診療室からの信号を受信できなくなる。長文をやりとりしたい場合PC2は物置でインクを補充しなければならない。

- ・受信したときにKPがシークレットで1d2を振り、1ならば受信文の奇数文字目、2ならば偶数文字目がかすれて読めなくなってしまう(かすれた文字はインクを消費しない)。PL1は同じ文字を二つ連続させるなどの対策を取らなければならない。

- ・文章作成時、アルファベット「Z,X,C,V,B,N,M」(キーボード4行目)が使用できない。PL2は文字の代用を駆使して意図を伝える必要がある。

テレタイプによって文章が送られた際、KPは「テレタイプの置かれている部屋から音がする」という内容の描写を行い、連絡が来たことに気づけるようにする。

スタッフカード・東エレベーター・小荷物専用昇降機

一階と二階をつなげる要素として、東エレベーターと小荷物専用昇降機が用意されている。探索者がこれらを使用するためには、毎回それぞれの近くにあるIC認証装置にスタッフカードを翳さなければならない。

生還エンド想定チャート

1. 導入→
2. PC1がトイレでスタッフカードを見つける→
3. どちらかのPCがテレタイプを見つけ、文章を送る→
4. テレタイプを使ってPC1がPC2へ近づかないべき区域について説明する→
5. やりとりの間にPC2が「シャッター操作の手引き」を見つける→
6. PC2が階段前のシャッターの種類を調べる→
7. テレタイプを通してPC2からPC1へシャッターの開け方を伝える→
8. PC1が小荷物専用昇降機でスタッフカードを二階へ送る→
9. PC1がシャッターが開き次第スタッフカードを回収して東エレベーターで一階へ降りるようにテレタイプで伝える→
10. PC1が事務室でCシャッターとDシャッターを開ける→
11. PC1は出入口Bから、PC2は出入口Aから脱出する→
12. エンディング

フレーバーアイテム「食材探求録」を読むための想定チャート

0. 生還エンド想定チャートを9くらいまで進める→
1. PC1が保管庫で鞆を見つける→
2. PC1が休憩室で手袋の空箱を見つけ、手袋があれば鞆に触れることに気づく→
3. テレタイプでPC1がPC2に手袋を要求する→
4. 浴室または倉庫でPC2が手袋を見つける→
5. PC2が小荷物専用昇降機で手袋を一階へ送る→
6. PC1が手袋をつけて鞆を漁る

バッドエンド送りになる行動例

- ・PC1が手術室の中に入りミ=ゴに殺害される
- ・PC1が手術室を通り抜け西側の汚染区域に入る
- ・攻略に必要な装置類を破壊する
- ・PC1がAシャッターを開けたことでミ=ゴが解放され、PC2が殺害される
- ・PC2が病室2にあるキノコに触れて汚染される
- ・PC2が病室4の窓から飛び降り死亡する
- ・PC2が東エレベーターでなく階段から一階に降り、正面玄関の惨状を目撃・汚染される

6. NPC

ミ=ゴ

病院のある桂沢町に感染力の研究を目的として不浄のキノコを持ち込んだ神話生物。何より研究を優先するが、暇であれば自身と遭遇した人間を殺害しようとする。

◇能力値（公式ルールブック改変）

STR 11 CON 11 SIZ 11 INT13 POW13 DEX 12

db+0 HP11 MP13

装甲:なし

攻撃:

・倉庫前个体

Aシャッターが開けられた場合のみ戦闘になる。ハサミで攻撃する。

・詰み解消イベント个体、手術室个体

常に電気銃での攻撃を優先し、電気銃を奪われた場合のみハサミで直接攻撃する。



電気銃 15% ダメージ1d10 / ハサミ 30% ダメージ1d6+組み付き*

*ミ=ゴがハサミを外すまで犠牲者は行動不可。組み付かれている間、毎ラウンドハサミで必中・回避不能の1d6ダメージを受ける。犠牲者はSTR対抗に成功するとハサミを振りほどくことができる。

不浄のキノコ(高感染力型)

ミ=ゴによって地球へ持ち込まれたユゴス星の生物。従来知られていたものよりも人間に対する感染力が高い。

◇能力値（マレウス・モンストロルム改変）

SIZ 11程度 INT7 POW14 MP14

装甲:なし



7. 導入

PC1

※HPを最大値の半分(小数点以下切り捨て)に設定する

探索者が目を覚ますと、病院の天井が見える。無事手術は終わったようだ。

頭のぼやけも取れてきて、あたりを見回す。

見守りの看護師がいてもいいようなものだが、部屋の中には誰もいない。

ふとベッドの枕元に目を落とすと、雑に切り取られた罫線入りのメモ用紙が置かれている。

そこにはこのようなことが書いてあった。 ※[医者を書置き]を開示する

※探索開始 狂気に陥ると気絶することを伝えておく

※一階と二階の地図を開示する

PC2

※HPを最大値の半分(小数点以下切り捨て)に設定する

探索者が目を覚ますと、病院の天井が見える。

体を起こすと見えるのは青色のカーテン。ここはどうやら病棟の一室のようだ。

部屋の中には他に誰もいない。

それどころか、壁の向こうからも一切人の声や物音が聞こえないのだ。

スライドドアを開けて外に出ると、壁に今いるフロアの地図が貼られているのを見つける。

※探索開始 狂気に陥ると気絶することを伝えておく

※二階の地図を開示する

8. 探索

「◆」は技能判定の成功で得られる情報、「◇」は特定の行動宣言で得られる情報。

「※」に続く文はKP向けの補足である。

[]で示されている資料の内容は9節、マップは4節を参照のこと。

1F

業務出入口A

金属製の扉。開け放たれており、遠くに雄大な山脈が見える。

東エレベーター

担架も入ることができそうな広いエレベーター。入り口の近くにIC認証装置があり、スタッフ用のカードがなければ動かすことができないようだ。

※スタッフカードを使用すると二階へ移動できる。

大トイレ

男女共用のトイレであり、清潔に保たれている。誰もおらず、めばしいものもない。

階段

ありふれたL字型の階段である。不審物はない。

正面出入口

正面出入口のほうへ向かう探索者は、自身の前に広がる光景に茫然することとなる。

受付の前、不自然にも置き放たれた担架が目飛び込む。寝かされている人の影。

—その体は海綿のようにぼろぼろだった。その体は見るからに肉の質を失っていた。手も足も目も口も邪悪な物質に冒され、生理的な嫌悪感を催すほどに生物としての正常を欠損している。

そして何より不幸なのは、それが唯一の異常でなかったことだ。

この空間は不吉に満たされていた。

担架の上の犠牲者と同じように体を浸食された大小の肢体が、あるいはその腕や指、ないし頭であつたと見られる一部分が、待合室のそこかしこに投げ出され、阿鼻地獄の体を示していたのである。

【正気度ロール1/1d10】

休憩室

病院スタッフが休憩するための机や椅子に荷物を置いておくラック、私物を入れるためのロッカーのほか、木製の本棚も置かれている。

※ロッカーには鍵がかかっている。

◆ロッカーに対して《鍵開け》

中には事務員のものと見られる**スタッフ用のカード**が入っていた。

※ここでの入手は想定していない。

◆本棚に対して《図書館》

本棚の中からこの病院がある町についての資料を見つける。[桂沢町ガイド]

◆ラックに対して《目星》

ゴム手袋の箱が置かれているが、中身はからっぽである。箱には付箋がつけられており、「二階倉庫で補充」と書かれている。

※手袋をつけているとキノコに触れても汚染されない

会議室

中央に大きな机があるシンプルな会議室だ。しばらく使われていない様子で、資料や道具は何も置かれていない。部屋の東側にはガラス窓が取り付けられており、ブラインドは上がっている。

◆《目星》or窓を見る宣言

窓を覗くと正面にトイレ、右手側にシャッターが見え、左手側には外につながる扉が開けっぱなしになっている。シャッターの近くにはラミネート加工の施された張り紙があり、そこには「E」と一文字大きく書かれている。

トイレ

何の変哲もないトイレである。壁に物を置くスペースがあり、そこには事務員のものと思われる**スタッフ用のカード**が置かれている。

※このカードを使用することで昇降機や東エレベーターを起動できる。

保管庫

部屋には棚の上に並べられた段ボールや、一時的にものを置いておくための机が設置されている。その中で、ある机の上には不自然な物質が転がっていた。それはスポンジか、あるいはカビの断片のように見えるが、その色彩は時々刻々変化し、集中して見つめようとしても輪郭がぼやけてしまう。次元から切り離されたようなこの物体は、探索者に本能的な嫌悪感を引き起こす。

【正気度ロール1/1d3+1】

※この物体に素手でさわると汚染されエンディングに影響が出る。

◆《目星》

キノコの近くに鞆が置かれているのに気付く。鞆は閉じており、口にはスポンジ状の不可解な物質の断片が付着している。もし開けようとするなら、この得体のしれない物質に触れることは避けられない。

※当然、この鞆に素手で触った場合も汚染されエンディングに影響が出る。安全に開けたければ休憩室の手袋を着用しなければならない。

◇鞆を開ける

中には水色のノートが一冊と、山菜がたくさん入っている。

◆《博物学×3》

かばんの中の山菜はぜんまいとふきが大部分であると分かる。

◇ノートを読む

表紙には「食材探求録」と汚い字で書かれている。一番最初のページには今から二年前の日付が振っており、最後のページの日付は昨日である。[食材探求録]

※KPに余裕があれば、エンド後に樹耳の遺言を弓野へ届けるイベントを用意してもよいかもしれない。

検査室

鍵がかかっている。

◆《鍵開け》

検査に使うさまざまな機材が置いてあるが、今役に立ちそうなものはない。机の上には駆血帯が置かれており、採血検査が行われていたものと見られる。

処置室

鍵がかかっている。

◆《鍵開け》

処置に使うさまざまな機材が置いてあるが、今役に立ちそうなものはない。

診察室1

患者を寝かすためのベッドや机があり、また部屋の隅には古びたテレタイプがある。「廃棄予定」と書かれたシールが貼られているが、インクも紙も少量ながらセットされており、院内の別の場所へ文章を送信することができそうだ。

※使用すると、2F病棟事務室にあるテレタイプへ数字・英語大文字アルファベットおよび基本的な記号(0,.,-+':/)で構成された文章を送信できる。また、逆にこちらが文章を受け取ることもできる。こちらから送信した場合はPL2の部屋で「病棟事務室のほうから機械音がした」と説明し、PL2がテレタイプを調べたときはPL1が送信した文章を開示する。逆に、受信した場合はPL1に「診察室のほうから機械音がした」と説明し、このテレタイプを調べた時はPL2によって送られた文章を開示する。

※東側の扉は特殊な鍵で施錠されており、《鍵開け》に成功しても開かない。

◆《知識》《機械修理×2》《電気修理×2》《電子工学×2》《コンピュータ×2》
かなり古い型であることがわかる。院内の他の場所にもテレタイプがあるかもしれないが、目の前の個体の製造年を見るに故障している可能性も0ではないだろう。

診察室2

患者を寝かすためのベッドや机があり、壁には澄んだ海を描いた絵画が飾られている。机の上には病気の説明に使用するのであろう臓器の模型が飾られているほか、たくさんの紙の資料の束がある。

※東側の扉は特殊な鍵で施錠されており、《鍵開け》に成功しても開かない。

◆《知識÷5》《医学×2》《生物学×2》《薬学×2》
置かれている臓器模型は肺のある一部分を象ったものであると分かる。おそらく直近で呼吸器科の症状について診察をしていたのであろう。

※この病院には呼吸器出身の内科医がいる。

◆紙の資料に対して《図書館》
問診表が置かれていることに気づく。この部屋で前に診察された患者のものようだ。[問診表]

◆絵画に対して《知識÷2》《芸術(絵画)×2》
飾られている絵はラッセン作のものであると分かる。

事務室

病院の整然としたイメージとは異なり、ほとんどのデスクは人がいないにもかかわらず散らかっている。あたかも作業中であるかのようだ。紙の資料がたくさんあるが、いちばん手前の机に置かれている赤い重要そうなファイルがひと際目につく。

東側にある受付窓口はブラインドが降りている。

※窓口のブラインドの奥にはガラス窓があるためキノコの胞子は飛んでこない。

◇紙の入ったファイルを確認

一番上には部屋/ベッド番号とその患者の病気が書かれた紙が挟まれている。[入院患者一覧]

◆ファイルに対して《図書館》

ファイルの中を漁ると、ある資料に大きな付箋が無造作に貼られているのに気付く。その付箋にはこのようなことが殴り書きされている。[事務員の付箋]

淡々としたメモの中にある不穏な言葉に不安感を覚える。

【正気度ロール0/1】

※付箋の貼られている資料自体には対して重要なことは書かれていない。

◆《目星》(シャッターの操作盤を探すと宣言した場合判定不要で発見できる)

部屋の隅にパスワードを入力すると開きそうな小窓があることに気づく。

※パスワード「BPWD」を入力すると小窓が開き、シャッターの操作盤が使用可能になる。

◇受付窓口のブラインドを上げる

ブラインドを上げると、受付の前、不自然にも置き放たれた担架が目飛び込む。

寝かされている人の影。

—その体は海綿のようにぼろぼろだった。その体は見るからに肉の質を失っていた。手も足も目も口も邪悪な物質に冒され、生理的な嫌悪感を催すほどに生物としての正常を欠損している。

そして何より不幸なのは、それが唯一の異常でなかったことだ。

この空間は不吉に満たされていた。

担架の上の犠牲者と同じように体を浸食された大小の肢体が、あるいはその腕や指、ないし頭であったと見られる一部分が、待合室のそこかしこに投げ出され、阿鼻地獄の体を示していたのである。

【正気度ロール1/1d10】

西エレベーター

ボタンを押してみても反応しない。扉の右側にはIC認証装置があり、スタッフ用のカードがないと使用できないようだが、そもそも認証装置の電源が入っていないように見える。

※スタッフ用カードを持っている場合でもここから二階へ移動することはできない。

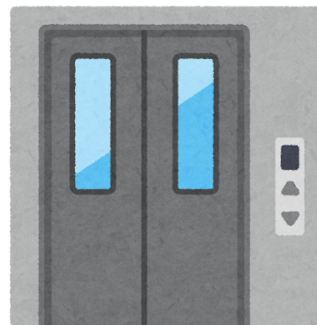
小荷物専用昇降機

人が入れない程度の大きさの昇降機。すぐ横にはIC認証装置があり、スタッフ用のカードを翳さない限り上の階へ物を送ることはできないようだ。この昇降機のカゴは現在探索者のいる一階で停止しているが、中身は空である。

※昇降機の中身を取り出すのには認証不要。ほかの階への移動機能を起動する際のみスタッフカードが必要になる。したがって、スタッフカードで昇降機を起動後、中にスタッフカードを入れてしまえばカードを二階に送ることができる。

◆《知識》《機械修理×2》《電気修理×2》《電子工学×2》《コンピュータ×2》

比較的新しく設置されたものであると分かる。静粛性能が高く、昇降機が別の階に移動しても音で気付くことは困難であろうと思う。



手術室

※部屋の構造は東側と西側に単純化できる。東側には内側への扉、西側には操作盤と外側への扉があり、東側と西側の行き来には1ラウンドを要する。この間ミ=ゴは電撃銃で攻撃するが、回避できるかどうかはKPに任せる。

扉に近づくと、中から機械を動かす大きな音が聞こえる。

◆《聞き耳÷2》

機械の音に混じって、誰もいないはずの手術室から大きな羽虫の羽ばたくような音が聞こえる。

【正気度ロール0/1】

◇入る場合：

探索者が扉を開ける。そこには轟音をたてる巨大な直方体型の機械と、翼を使って忙しそうに飛び回る3体の身の毛もよだつ見た目をした生き物がいた。彼らはあやしい蝙蝠のような翅を持ち、全身を薄紫色の殻で覆って、おぞましい渦巻く楕円形の頭をあなたに向けている。その頭部に目こそついてはいないが、闖入者である探索者をじっと睨みつけているように思われる。

【正気度ロール1/1d6】

彼らのうち一体が探索者に向けて銃口を向けて威嚇しているが、少なくとも今は発砲する様子が見られない。

※彼らは研究に忙しいので、探索者から近づかない限り襲ってこない。部屋の中へさらに歩を進める場合、ミ=ゴ3体との戦闘(6節参照)になる。部屋から出ない限り戦闘は終わらない。

◆《アイデア》《生物学》《クトゥルフ神話×5》

彼らは機械での作業に忙しく、今のところ無害である探索者を襲撃するほどの余裕がないのかもしれないと思う。

◆《目星》

部屋の奥、扉の隣になにかの操作盤のようなものが見える。

※シャッターの操作盤であるが、事務室での操作が正規ルートである。操作には移動と別に1ラウンド要する。

術後回復室

探索者が目を覚ました部屋。

◆《目星》

手術室の机の上にきれいなメスが置かれているのに気づく。

※メスを武器として使用する場合は《ナイフ》(初期値25%)技能で判定、ダメージ1d4+db。

業務出入口B

金属製の扉。開け放たれている。

業務出入口C

金属製の扉。開け放たれている。

シャッター(業務出入り口A前)

火災のときに使用するものと思われるシャッターがなぜか下りている。力づくで開けることは到底できそうもない。

◆《目星》『シャッター操作の手引き』を読んでいる場合、既に他のシャッターで張り紙を発見している場合は判定不要で発見)

シャッターの近くにラミネート加工された張り紙があり、そこには『E』と書かれている。

シャッター(正面出入り口前)

火災のときに使用するものと思われるシャッターがなぜか下りている。力づくで開けることは到底できそうもない。

◆《目星》『シャッター操作の手引き』を読んでいる場合、既に他のシャッターで張り紙を発見している場合は判定不要で発見)

シャッターの近くにラミネート加工された張り紙があり、そこには『E』と書かれている。

シャッター(術後回復室前)

火災のときに使用するものと思われるシャッターがなぜか下りている。力づくで開けることは到底できそうもない。

◆《目星》『シャッター操作の手引き』を読んでいる場合、既に他のシャッターで張り紙を発見している場合は判定不要で発見
シャッターの近くにラミネート加工された張り紙があり、そこには『B』と書かれている。

シャッター(休憩室横)

火災のときに使用するものと思われるシャッターがなぜか下りている。力づくで開けることは到底できそうもない。

◆《目星》『シャッター操作の手引き』を読んでいる場合、既に他のシャッターで張り紙を発見している場合は判定不要で発見
シャッターの近くにラミネート加工された張り紙があり、そこには『D』と書かれている。

シャッター(西エレベーター横)

火災のときに使用するものと思われるシャッターがなぜか下りている。力づくで開けることは到底できそうもない。

◆《目星》『シャッター操作の手引き』を読んでいる場合、既に他のシャッターで張り紙を発見している場合は判定不要で発見
シャッターの近くにラミネート加工された張り紙があり、そこには『E』と書かれている。

2F

病棟。開いている窓があるのは病室4のみであり、その下は小さな崖になっている。ここから飛び降りて脱出する場合は2d6ダメージを受ける。(跳躍成功でダメージは1d6軽減される)

東エレベーター

担架も入ることができそうな広いエレベーター。入り口の近くにIC認証装置があり、スタッフ用のカードがなければ動かすことができないようだ。

※スタッフカードを使用すると一階へ移動できる。

階段

ありふれたL字型の階段である。不審物はない。

トイレ(階段横)

男女兼用のトイレだ。

◆《目星》

トイレットペーパーがない。次に入った人は泣きを見ることになるだろう。

※トイレ中に避難を促された人が動転してペーパーごと持って行った。目星クリティカルなら不自然な位置にペーパーのかけらが落ちていることに気づくかもしれない。

トイレ(病室横)

病室から近く、入院患者が最も高頻度で使用するであろうトイレだ。

◆《目星》

掃除に使う木製のブラシが壁に立てかけてある。振りかぶって殴られたら何本か骨が折れるかもしれない。

※ブラシを武器として使用する場合は《小さい棍棒》技能(初期値25%)で判定、ダメージ1d6+db。

浴室

患者が介助ありでも入浴できるように、一般家庭の浴室よりも一回り大きい。湿気は感じず、直近の使用から少なくとも数時間は経過しているだろう。

◆《目星》

箱入りのゴム手袋が見つかる。看護師が患者に接触する際に使用するものであろう。

※この手袋をしていると不浄のキノコに触れても感染しない。

病室

病室1

入って左側にある病床のカーテンが開け放たれ、机の上には昼食が下膳されないまま放置されている。ベッドの枕元にはノートが何冊か重ねて置いてあり、その脇には「セフトリアキソン」と書かれたバッグの取り付けられている点滴台が置かれている。

◆部屋の外観に対して《目星》（ネームプレートを探すと宣言した場合や、既に他のネームプレートを見つけている場合は判定不要で発見できる）

部屋の入口に『堀縁 奈由様』と書かれたネームプレートが置かれている。

◆ノートに対して《図書館》

雑多に置かれた荷物の中、かわいらしい見た目の日記帳が置かれていることに気づく。

[病室の日記]

◆《知識÷5》《医学×2》《薬学×2》

セフトリアキソンが広く感染症に用いられる抗生薬であることを知っている。

病室2

窓のカーテンは閉め切られ、照明も消えており、部屋全体が薄暗い。入って左側にある病床のカーテンが少し開いている。

◆部屋の外観に対して《目星》（ネームプレートを探すと宣言した場合や、既に他のネームプレートを見つけている場合は判定不要で発見できる）

部屋の入口に『樹耳 二見男様』と書かれたネームプレートが置かれている。

◇カーテンを開ける

容易に予想できる通り、カーテンの中には誰もいなかった。しかし、ベッドの足元に目を遣ると、そこには不自然な物質が転がっていた。それはスポンジか、あるいはカビの断片のように見えるが、その色彩は時々刻々変化し、集中して見つめようとしても輪郭がぼやけてしまう。次元から切り離されたようなこの物体は、探索者に本能的な嫌悪感を引き起こす。

【正気度ロール1/1d3+1】

※この物体に素手でさわると汚染されエンディングに影響が出る。

◆《目星》

この部屋にあったであろう患者の荷物はどこを探しても見当たらない。机の上には付箋が貼り付けられており、「荷物は一階保管庫に移動しました」と書かれている。

病室4

換気中なのか、正面にある窓が開いている。奥側左と手前側右、二つの病床のカーテンが開いており、手前側の病床にはこの部屋に入院していた患者のものと見られるメモ書きが置いてある。

◇メモを読む場合

※[患者のメモ]を開示する。

手書きで記された非現実的なストーリーに寒気がする。

【正気度ロール0/1】

◆部屋の外観に対して《目星》（ネームプレートを探すと宣言した場合や、既に他のネームプレートを見つけている場合は判定不要で発見できる）

部屋の入口に『ジョンソン 真助様、弓野 凱亜様』と書かれたネームプレートが置かれている。

◆部屋の中に対して《目星》

奥側の病床の机に「ジョンソン様へ 内視鏡検査のご案内」と書かれた紙が置かれている。検査する器官は大腸のようで、検査日は12月17日となっている。

病室5

探索者が目覚めた病室である。荷物はなくしてしまったのか、ここには置いていない。

病室3

使用されていないようで、鍵がかかっている。

◆《鍵開け》

中には誰もおらず、すべての病床のカーテンが開けられている。右側にあるベッドの脇には、前の入院患者の忘れ物なのか「Arcaea Sound Collection - Memories of Light」(¥3,300)が置かれている。

※鍵開けを行ったPLはArcaeaをプレイし、Fracture RayのFTR譜面をPMする義務が生じる。

宿直室

鍵がかかっている。

◆《鍵開け》

中には誰もおらず、すべての病床のカーテンが開けられている。左側にあるベッドの脇には、職員の趣味なのか「Arcaea Sound Collection – Memories of Conflict」(¥3,300)が置かれている。

※鍵開けを行ったPLはArcaeaをプレイし、Grievous LadyのFTR譜面をPMする義務が生じる。

休憩室

スタッフの荷物を保管するためのロッカーや、食事を取るための長机が見える。長机の上には年季の入った薄い冊子が置かれている。

◇冊子を確認する

表紙には「シャッター操作の手引き」と書かれている。ページ数は少なく、あまり時間をかけずに読むことができそうだ。[シャッター操作の手引き]

◆ロッカーに対して《鍵開け》

中には女性ものの服が入っている。

◆《変装》

ロッカー内の衣装に違和感なく着替えることができる。

◆《目星》

飲みかけのペットボトル飲料が床に落ちている。

※探索者の好みの飲み物であるか《幸運》を振ってみてもよい。

病棟事務室

事務用の机がずらりと並んでおり、部屋の隅には古びたテレタイプが置かれている。

◇テレタイプを調べる

「廃棄予定」「Z,X,C,V,B,N,M無反応」と書かれたシールが貼られているが、インクも紙も少量ながらセットされており、院内の別の場所へ文章を送信することができそうだ。

※使用すると、1F診察室1にあるテレタイプへ数字・英語大文字アルファベットおよび基本的な記号(0,.,-+':/)で構成された文章を送信できる。ただし、このテレタイプは故障したまま放置されているため受送信に関して以下の制約がかかる。

- ・初期状態では、受信した文字数の合計が100文字を超えるとインク切れを起こし診療室からの信号を受信できなくなる。長文をやりとりしたい場合PC2は物置へ行きインクを補充しなければならない。
- ・受信したときにKPがシークレットで1d2を振り、1ならば受信文の奇数文字目、2ならば偶数文字目がかすれて読めなくなってしまう(かすれた文字はインクを消費しない)。PL1は同じ文字を二つ連続させるなどの対策を取らなければならない。
- ・文章作成時、アルファベット「Z,X,C,V,B,N,M」(キーボード4行目)が使用できない。PL2は文字の代用を駆使して意図を伝える必要がある。

こちらから送信した場合はPL1の部屋で「診察室のほうから機械音がした」と説明し、PL1がテレタイプを調べたときはPL2が送信した文章を開示する。逆に、受信した場合はPL2に「病棟事務室のほうから機械音がした」と説明し、このテレタイプを調べた時はPL1によって送られた文章を開示する。

◇机を調べる

机には紙の入ったたくさんのファイルと内線用の固定電話、および内線番号表が置かれている。

◇電話を調べる

番号表の通りにかけてもどこにもつながらない。

※内線が切れている。

◆《アイデア》

内線が切れているのかもしれないと思う。

◆ファイルに対して《図書館》

今日から入院する患者についての資料が見つかる。

※KPはPC1が受ける手術の内容とその後の入院予定について即興の資料を作り、提示する。

◆《アイデア》

もしかしたらこの患者も病院の中にいるのかもしれない、と思う。



倉庫

部屋に足を踏み入れると自動で照明がつき、入院や治療のための道具が丁寧に保管されている棚の姿があらわになる。それと同時に、正面奥に切り取られた小さな硝子窓の向こうでじっとしているおぞましい存在が、探索者の視界に飛び込んできた。

人間の背丈ほどあるその生物は、蟹のようなピンク色の殻に身をつつんでおり、これまた蟹のようなハサミを両手に備えている。しかし目の前の生命体がありふれた水生生物と大きく異なっているのは、羽によって宙に浮いている点と、頭部があるべき場所にうず模様のある楕円体が存在しているということである。それは窓から差し込む光に気づき、体を探索者のほうへ向けていた。

【正気度ロール0/1d6】

※このミ=ゴは想定外にもシャッターによって狭い空間に閉じ込められてしまった個体である。現時点では、窓に近づかない限り襲ってこない。

※《幸運》に成功すれば、KP裁量でPLの望むものが手に入ってもよい(手袋など)。

◆《目星》(テレタイプを発見済みの場合判定不要)

怪物のいる窓のそばに、インクカートリッジの入った箱を見つける。

◇インクに直接(ブラシなどの長い棒を使わず)手を伸ばす場合

探索者がインクを取ろうとすると、前方から高く耳障りな音が聞こえる。探索者と怪物を隔てていたガラスが割られたのだ。穿たれた窓の穴から、探索者に向かって鋭いハサミが飛び出してくる。

※窓ガラスの破片によって怪我をしていないか《幸運》判定を行う。成功で0ダメージ、失敗で1ダメージ。

※さらに、ハサミ攻撃からとっさに逃れられたか《DEX×5》で判定する。成功するとダメージなし、失敗するとハサミの刃がかすって1d3ダメージを受ける。

※インクを回収できた場合、テレタイプで受信できる文字数が100000字増える。

◇窓に近づかないでインクを取るために長い棒などを探する場合

《目星》《幸運》などに成功すれば箒などを発見してもよい。

小荷物専用昇降機

人が入れない程度の大きさの昇降機。すぐ横にはIC認証装置があり、スタッフ用のカードを翳さないと動かせない。昇降機のカゴは現在一階で停止しているようだ。

◆《知識》《機械修理×2》《電気修理×2》《電子工学×2》《コンピュータ×2》

比較的新しく設置されたものであると分かる。静粛性能が高く、昇降機が別の階に移動しても音で気付くことは困難であろうと思う。

調理室

病院食をまとめて作るための大きな鍋やさまざまな調理器具が置かれており、壁には料理や健康に関するポスターが所せましと貼られている。

◆部屋全体に対して《目星》

下膳車に汚れた食器が積まれたまま放置されている。

◆調理器具に対して《目星》

鋭利な肉切り包丁を見つける。頑張れば骨でも断てそう。

※肉切り包丁を武器として使用する場合は《ナイフ》技能(初期値25%)で判定、ダメージ1d6+db。

◆ポスターに対して《図書館》

郷土料理として「ぜんまいの桂煮」のレシピを紹介しているポスターが見つかる。

◇読む場合

※《制作(料理)》の経験ロール(技能を振り、失敗なら技能値を1d10成長させる)を行う。

成長した場合:地域特有の調理法を学んだことで、探索者は心なしか自分の料理センスが磨かれたような気がする。

成長しなかった場合:張り紙に書かれている調理法はどれも探索者にとって既知のものだった。

西エレベーター

ボタンを押してみても反応しない。扉の右側にはIC認証装置があり、スタッフ用のカードがないと使用できないようだが、そもそも認証装置の電源が入っていないように見える。

※スタッフ用カードを持っている場合でもここから一階へ移動することはできない。

広場

面会や患者の憩いの場として利用されている広場だ。テーブルやソファが並んでいるが、何も置かれてはいない。窓際には小さめの本棚も設置されている。

◆《聞き耳》

真下から何か機械を動かすような大きな音が聞こえる。

◆本棚に対して《図書館》

本棚の中からこの病院がある町についての資料を見つける。[桂沢町ガイド]

シャッター(トイレ前)

火災のときに使用するものと思われるシャッターがなぜか下りている。力づくで開けることは到底できそうもない。

◆《目星》『シャッター操作の手引き』を読んでいる場合、既に他のシャッターで張り紙を発見している場合は判定不要で発見)

シャッターの近くにラミネート加工された張り紙があり、そこには『C』と書かれている。

シャッター(倉庫前)

火災のときに使用するものと思われるシャッターがなぜか下りている。力づくで開けることは到底できそうもない。

◆《目星》『シャッター操作の手引き』を読んでいる場合、既に他のシャッターで張り紙を発見している場合は判定不要で発見)

シャッターの近くにラミネート加工された張り紙があり、そこには『A』と書かれている。

9. エンディング

•ED1

条件:気絶、または狂気に陥る

その後探索者が目を覚ますことはない。

後日。桂沢町にある病院で起きた未知の感染症による騒動が地元新聞に取り上げられた。

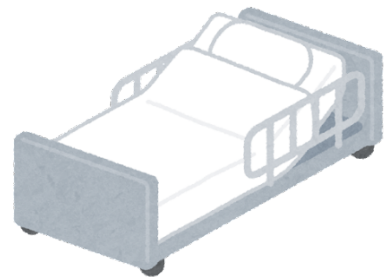
探索者が人気のない病院で目覚めた12月16日、正面出入口では大量のスタッフがその肉体を海綿状に変化させながら息絶えた、と記事は語る。

不思議なことに、警察が対処のために病院へ訪れた時には感染者の遺体はなくなっており、細菌やウイルスも一切検出されなかったという。

あの日、病院を地獄へと一変させたのは一体なんだったのか。探索者は一体どこへ消えたのか。

その問いの答えを与える報道は、ついぞ現れなかった。

※【探索者ロスト】



・ED2

条件:汚染区域に一度も入らず病院を脱出する

病院の外は真っ暗であった。

夜の冷たい空気が、肺を心地よく満たしていく。

幸いにも、病院の近くにはバス停がある。

探索者は無事に帰宅することができるだろう。

一後日。探索者は、桂沢町にある病院で起きた未知の感染症による騒動がテレビで取り上げられているのを見る。

探索者が人気のない病院から抜け出した12月16日、正面出入口では大量のスタッフがその肉体を海綿状に変化させながら息絶えていたらしい。

不思議なことに、警察が対処のために病院へ訪れた時には感染者の遺体はなく、細菌やウイルスも一切検出されなかったという。

あの日病院を地獄へと変化させたのは一体なんだったのか。

その問いの答えを与える報道は、ついぞ現れなかった。

※詰み解消イベントを経験しなかった場合:【正気度+1d10,クトゥルフ神話技能+1%】

※詰み解消イベントを経験した場合:【正気度+1d3,クトゥルフ神話技能+2%】

•ED3

条件:汚染区域に入ったあとに病院を脱出する

病院の外は真っ暗であった。

夜の冷たい空気が肺を刺激する。

幸いにも、病院の近くにはバス停がある。

探索者は無事に帰宅することができるだろう。

病院にいたときの緊張感から解き放たれ、家につくと疲れがどっと溢れ出る。

食事をとり、入浴を済ませてすぐ床につくだろう。

一翌日。探索者は、呼吸が苦しくなり目を覚ます。

起き上がろうとしてもうまく体を持ち上げられない。

藻掻いていると激しくせき込んでしまう。

そのまま頭がぐらりとして、力を入れるのを諦める。

重力に抗おうとベッドを押していた手は、ところどころ朽ち、変色しているように見える。

しかし、それに驚く気力すらもう残されていなかった。

探索者は再び目を閉じる。

それが最期の眠りになるとも知らずに――

※【探索者ロスト】

10. 資料

[医者の書置き]

目が覚めた時のために書き残しておきます。

〇〇さんの手術が終わってから数時間後に病院内で大きなアクシデントが発生し、私たちは病院外への退避を余儀なくされました。

本当はあなたも病院外へ移動させたかったのですが、手術終了直後であったことを考えると合併症を起こすリスクが高く、断念せざるを得ませんでした。申し訳ありません。

私が思うに、汚染から十分に隔離されているこの区域はおそらく安全です。このメモを読んだらすぐに部屋を出て廊下を左側へ渡り、北側の業務出入口から脱出してください。不審物を見つけても近づかないこと。

決して正面出入口付近や南西区域には近づかないようにお願いします。感染の危険がありますし、手術後の弱った体であの惨状を見ると精神に不調をきたしかねませんから。

[問診表]

氏名:山毛櫓橋 宏 (ブナバシ ヒロシ)

年齢:63 職業:森林作業員

身長:164cm 体重:63kg

・どのような症状がありますか？

-胸痛、息苦しさ

・症状の性質は？

-次第にひどくなっている

・症状が現れる時間帯は？

-一日中

・症状はいつから？

-昨日から

[入院患者一覧]

発行日:〇〇年12月16日

・堀縁 奈由 (ホリブチ ナユ)

〇大学理工学部の学生。▲▲県▲▲区▲▲▲▲▲。

12月7日より肺炎の薬物治療のため入院中。高熱あり。

病室1

・ジョンソン 真助 (ジョンソン サダスケ)

町内在住。

12月17日に控える大腸内視鏡検査のため12月15日より入院中。症状無し。

病室4

・樹耳 二見男 (キノミ フミオ)

K大学の学生と見られる。

12月15日に桂沢山中腹で意識を失っているところを発見され搬送・入院。現在回復し経過観察中。

病室2

・弓野 凱亜 (ユミノ ガイア)

D大学理工学部の学生。△△府△△区△△△△。

12月15日に桂沢山中腹で意識を失っているところを発見され搬送・入院。現在回復し経過観察中。

病室4

・(PC2の名前) (PC2のフリガナ)

12月16日に桂沢川公園で意識を失い救急搬送。生命反応はあるがまだ目を覚ましていない。点滴を実施中。

病室5

[事務員の付箋]

・病室2-1 患者の荷物内に不審物あり 荷物ごと保管庫へ移動済み

・病室5-1 目覚め次第身元確認

・内線定期点検

追記

・病室2-1 右手筋組織に広範な病変あり(海綿状に変化)、徐脈 附属病院太田Dr.に連絡

・病室4-2 病室2-1の患者を心配している 声かけ

[病室の日記]

12月13日

そろそろ期末レポート書き始めないとだけど咳止まんないし問題文ワケワカメだしやる気でないな。。。バナッハ？リブシツ？？？意味不すぎる。。。。

12月14日

一日かけてレポート書いてやったわ。最強！！

あと昼すぎくらいに担架の音がしたけど隣の病室に人が入ったのかな？騒ぐタイプじゃなきゃいいけど。

12月15日

朝から晩まで隣の部屋からうめき声が聞こえて寝れないんだが！？担当のオバタリアンの態度も悪かったしマジチョベリバだわ～

[患者のメモ]

〇〇/12/15?

山で起きたことについて忘れないように記録したいが、スマホをなくしたので紙に書いておく。
俺は和食サークルの部長である樹耳先輩と一緒に、山菜を求めて大分の桂沢山脈へ来た。
噂に聞いていた通り、ここは山菜の宝庫だった。採取したてのものをいくつか食べてみたが、大学の近くで取れるものとは質が違う。いやそんなことはどうでもよくて、俺たちはそこで明らかに異質な食材を発見し、異質な生物に遭遇したのだ。

見つけた場所は山の中腹に存在するギャップの中心だった。そこにあったのは小動物ほどの大きさの、おそらくキノコの群生であったのだろうか？樹耳先輩はそれを見るやいなや手を伸ばし、目を輝かせてバックに入れた。ただどうも色合いがおかしい。赤色に見えたかと思えば緑色になり、次の瞬間には茶色になっていくのだ。もしかすると単に俺の目が疲れていたのかもしれないが、しかしやはり未知のキノコは往々にして毒を持っているものだ。俺はキノコを手づかみで回収した先輩のことを心配していた。先輩は口こそ悪いものの、料理の腕は部員全員に認められている。俺だってひそかに憧れているのだ、こんなところで失いたくはない。

そんなところへ、今度は俺たちの背後から変な生物が現れた。尤も、俺は一瞬視界にそれを捉えたただけですぐに気を失ったのだが.....俺の記憶が正しければ、その生物は中に浮いていた。そして地球上の動物らしからぬ体の構造をしていたように思う。じっくり見る間もなく俺はそいつが手にしている銃のような装置で撃たれたのか、視界が一瞬白くなり、そして病院で目覚めた。

あれは未確認生命体の一種なのだろうか？写真に収められなかったのが惜しい。

看護師は何も教えてくれないが、本当に先輩は大丈夫なのだろうか。「俺が山か海でくたばったらいつも鞆に入れている秘伝の記録帳をお前に譲ってやる」なんて冗談を言ってたが、まさか本当に死んでたりなんてことは.....

[桂沢町ガイド]

★桂沢町とは？

桂沢町は九州に位置する農村です。北方を囲む桂沢山脈に見守られながら、町内唯一の学校である桂沢高校や日本有数の農業研究施設である桂沢農業センターで町民たちは日々活気にあふれた生活を行っています。

★桂沢町グルメ

桂沢山脈には多種多様な山菜が自生していることで知られています。中でも、ぜんまいを豚肉・餅とともに煮込んで九州醤油ベースで味付けし、ふきの漬物を桂の樹に見立てて盛り付ける「ぜんまいの桂煮」は町民に愛されるソウルフードです。町内の商店街には桂煮を提供する飲食店が実に8店舗も存在するんだとか！

[シャッター操作の手引き]

！この手引きをむやみに管理者以外に見せないこと！

◇シャッターの種類

病院内のシャッターにはAシャッター,Bシャッター,Cシャッター,Dシャッター,Eシャッターの5種類があり、それぞれ異なる用途に使用されるがここでは割愛する。シャッターの種類はシャッターの付近に張り紙で示されている。

◇A～Dシャッターの操作は一階の事務室または手術室で、Eシャッターの操作は手術室のみで行うことができる。操作盤は四桁のパスワードロック式の扉で保護されており、そのパスワードは事務室で「BPWD」、手術室で「QCKJ」である。

[食材探求録]

〇〇年12月14日

大分県桂沢町

天候:晴天

同行者:ユミノ

収穫した食材:ワラビ、フキ、ゼンマイ、ウド、キクラゲ、

調理内容:

15

苦しい 眠い たぶん死ぬ

原因はキのコか羽虫のどちらかだと思う

こんなこともあろうかと遺書はまいど書いて家においていたから、家族はそれを読んでほしい

書き忘れたことをここに書いておく

まずユミノ メイワクをかけてすまなかった 副部長に俺がお前を次の部長としてすいせんしていたと伝えておいてくれ おまえならできる

それから

むりだかけないでがふろえるわ
ねる

11. あとがき

医学エापなのに病院シナリオつくってごめんなさい！

あと2000年初頭はまだ作者生まれてません！！変なところあっても多めに見てください！！！！

1PLシナリオとして誘われて遊んでみるとあらびつくり向こうに人がいる、という展開をやりたかっただけです。面白いかは知りません。

12. クレジット

シナリオ・地図作成:N (5mm)

使用イラスト:いらすとや

テストプレイ:かつさんど,メタモン

本作は、「株式会社アークライト」及び「株式会社KADOKAWA」が権利を有する『クトゥルフ神話TRPG』シリーズの二次創作物です。

Call of Cthulhu is copyright ©1981, 2015, 2019 by Chaosium Inc. ;all rights reserved. Arranged by Arclight Inc.

Call of Cthulhu is a registered trademark of Chaosium Inc.

PUBLISHED BY KADOKAWA CORPORATION 「クトゥルフ神話TRPG」「新クトゥルフ神話TRPG」

13. 更新履歴

2026/2/6 ver.1.0.0